

# 地域医療連携だより

Vol.259

R7.1

長浜赤十字病院 地域医療連携課  
〒526-8585 滋賀県長浜市宮前町14-7  
TEL 0749-68-3314  
FAX 0749-68-3315



地域医療支援病院・救命救急センター  
地域周産期母子医療センター  
地域災害医療センター  
滋賀県地域がん診療連携支援病院  
滋賀県基幹原子力災害拠点病院



あけましておめでとうございます。  
平素より当院の地域連携に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。  
本年もどうぞよろしくお願いいたします。



## 新年のご挨拶



日頃は当院の運営に多大なご理解をいただきまして誠にありがとうございます。  
3年余りにわたり全国に大混乱をもたらした新型コロナウイルス感染症も2023年5月に5類扱いとなり、さらに1年が経過する間に社会もかなり正常化してきた様に思います。免疫低下状態の患者さんも多い病院内ではマスクが欠かせませんが、屋外のみならず公共施設や交通機関などでもマスクをしていない方が目立ってきていますし、交流会や宴会なども開かれるようになってきています。パンデミックのさなかに体験した事を持ち寄っての次に備えるための検討もかなり行われたように思います。今となっては振り返ってみれば湖北は第1波の頃から地域が一丸となって取り組めた様に思います。



くすい たかし  
病院長 楠井 隆

本年2025年ターゲットとされている地域医療構想に関連した病院再編の検討はコロナ禍中の中断もあり、想定より遅れている状況です。地域医療構想についてはすでに2040年をターゲットとする第2弾もあり、1日も早い決着に向け引き続き努力していきたいと考えています。いずれにしても、地域4病院の全てを巻き込むプロジェクトですので、病院以外の方々、住民を含め一丸となって取り組む機運を盛り上げていきたいと思っております。

さて、このような状況の中、病院の機能の維持、強化は必ずしも容易ではなかったのですが、ここ2年程の間に整備したCT、MRI、血管造影装置、ダビンチなどは運用にも慣れ成果を発揮しているところです。昨年度からは救命救急センターの役割のひとつとして「総合外傷センター」を掲げることとしました。重症外傷では救命のほか、機能の維持回復、それに向かったの精神的なサポートなども重要です。これまでの外傷外科の経験、精神科医を含む他職種でのチーム医療を活かし、より高度な外傷治療ができていると自負しております。これにあわせて開始したドクターカーの運用も彦根、高島方面へも守備範囲を広げるなど拡充しております。病院到着前から医療スタッフが関与することにより予後の改善に寄与すると期待しております。

昨年元旦に発生した能登半島地震では翌2日出発の第1隊以下多数のDMAT、救護班、調整チーム、心のケアチームを派遣しました。現地では9月に起こった水害もあり、今なお復興への道は遠いようですが、多くの活動ができたことも皆様のご支援、応援のおかげと感謝する次第です。

今年は巳年。ヘビは脱皮することから変革を目指すのによい年と言われているようです。第2弾となる地域医療構想への対応を始め地域における医療・介護・街作りなどとの協業を始めさらなる連携強化、地域としての機能高度化を目指したいと考えております。引き続きよろしくお願いいたします。患者紹介はもちろんのこと、ご指導、ご意見、ご苦情…なんでも歓迎いたします。



# 院内大規模災害訓練に初めてDPAT活動拠点本部の業務調整員として参加してみて

11月30日開催

DPAT先遣隊 精神保健福祉士 池田周平

昨年度厚生労働省の指定研修を精神保健指定医1名、看護師1名、精神保健福祉士の私の他職種チームで受講し、DPAT（災害派遣精神医療チーム）先遣隊として隊員登録を行いました。滋賀県では2チーム目、全国の赤十字では初めての取り組みとなります。あまり耳馴染みがないかもしれませんが、災害派遣医療チーム「DMAT」の精神科版とイメージしていただくと幸いです。まだまだ記憶に新しい能登半島地震においても、避難生活を余儀なくされた精神疾患をもつ患者さんの支援をDPATが担っていました。また赤十字のこころのケア班とも協働し、支援を展開した実績があり、人道と博愛の精神に基づく赤十字活動とも近い存在と言えるでしょう。

今回の大規模災害訓練は、柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯を震源とする滋賀県北部を中心とした最大震度7の地震が発生、家屋の倒壊とともに多数の傷病者が発生するという想定でした。長浜赤十字病院DPAT先遣隊として長浜保健所に入り、DPAT活動拠点本部の立ち上げを行い、建物被害が甚大な精神科病院から入院中の患者さんの搬送先や搬送手段の調整を行いました。例年の訓練に初めてDPATが加わり、保健所との協働や各所の連絡調整に四苦八苦しりましたが、課題の発見とともに気持ちを引き締める良い機会となりました。

滋賀県は災害の少ない地域だと思われていますが、2017年に洪水による姉川の氾濫、2018年には台風20号による大規模停電、2022年には高時川の氾濫、去年は7月に米原市伊吹地域で大雨による土砂災害が発生しています。幸いにしていずれも大きな人的被害は生じませんでした。周辺住民の方が一時的に避難生活を余儀なくされるという事態となりました。被害の大小はあれ、急な環境の変化や生活の不安からこころの不調を来される方もいらっしゃいます。こころのケアの専門チームであるDPATが皆様の支えとなるよう日々の業務と災害訓練にこれからも精進していきたく思います。



## ホスピタルコンサートを開催いたしました

12月21日、当院にてホスピタルコンサートを開催いたしました。当日はマリimba奏者の松本 知暁氏をお招きし、美しい音色をお届けいただきました。

演奏曲には、誰もが一度は耳にしたことのある童謡「赤とんぼ」などが含まれ、会場は優しいメロディーと温かな雰囲気になりました。



## 成宮 正朗副院長受賞報告

令和6年12月5日に開催された一般社団法人滋賀県医師会の表彰式において当院の成宮 正朗副院長が「永年会員功労表彰」を授与されました。

## — 新任医師のお知らせ —

たかやま こういちろう  
循環器内科 副部長 高山 幸一郎

よろしくお祈いします

